No.181　令和８年11月13日

発行　大崎町議会　〒899-7305　鹿児島県曽於郡大崎町仮宿1029番地
編集　広報広聴常任委員会　TEL(099)476-1111　内線310・311
FAX(099)476-3979

おおさき 議会だより



秋空に舞うボールと歓声（第21回野方保育園運動会）

９月定例会

こんなこと決めました

- 令和８年度補正予算…… 2
- 町内事務調査…… 4
- 町政を問う（一般質問）…… 7
- 議会改革等調査特別委員会…… 14
- インタビュー（ピックアップおおさき）…… 17
- 町民の広場・編集後記…… 18

総務厚生常任委員会

令和8年度一般会計補正予算審議

委託料「関係人口創出コーディネート業務委託料」 280万円

問：事業内容と目的は。

答弁：地域や商工農業者における担い手不足などの課題と、その課題を解決するための専門人材をマッチングさせ、本町に関わる関係人口の創出や事業展開につなげるコーディネート役を委託する事業である。

問：契約先を鹿児島相互信用金庫に予定している理由は。

答弁：契約の相手方は、本町と平成30年に「大崎町リサイクル未来創生プログラム」の研究開発と推進に関する協定を締結し、さらに組織内に地域おこし研究部署をもっている鹿児島相互信用金庫を選定する予定である。

「大崎町居住住宅等リフォーム補助金」 2500万円

問：このリフォーム補助金は、家屋部分が30万円、雑木の除去が20万円であるが、実績は。

答弁：8月末までの実績で、申請件数が88件、執行額が2460万7000円である。申請件数のうち雑木・擁壁の除去が8件である。

問：雑木の除去に関しては、伐根が条件になっている。高木になると伐根するのは厳しい場合があると考えるが、効果的な補助金の使い方から補助要件を見直す考えは。

答弁：本年度から補助制度を開始したばかりで、現時点では制度の見直しは考えていない。今後、雑木除去の件数がどのように推移していくか、また住民からの意見等も聞きながら検討したい。

「大崎中学校屋内運動場空調設備設置工事」 400万円

問：具体的な工事内容と室外機を塩害仕様に変更することによる耐用年数への影響はどの程度か。

答弁：設計時点では既存キュービクルの拡張で対応する予定であったが、維持費用を考慮して九州電力の電柱から受電する方式に変更したことに伴う接続費用が約200万円で残額が室外機を塩害仕様に変更するための経費である。防腐食、防サビ塗装やネジ等をステンレスに変更することにより、5年から10年程度は耐用年数は延伸できるのではないかと考えている。



JRA耐重塩害仕様

委託料「スポーツによる地域活性化推進事業」関連経費 670万円

問：この事業は、スポーツ庁の補助事業を活用し、鹿屋体育大学と連携のもと、働く世代を対象とした職域向け、産後の母子や保育園児、小学生親子を対象に運動の習慣化を推進し、持続可能な健康のまちづくりの実現をめざすということだが、具体的事業は。

答弁：鹿屋体育大学が対象者に情報提供や説明会を実施し運動動画を作成し、ラインなどを通じて配信、継続的な運動促進をはかる。また健康アプリ「まるけん」を活用し、これらから得られたデータをもとに評価・分析を行い、国の補助期間である3年間で運動の習慣化に結び付けていきたい。

環境衛生費 593万円

問：大崎地区の資源リサイクルごみステーションを中央分団の消防詰所跡地へ移転することに伴う関連経費であるが、町内3ヶ所のごみステーションへの車両の搬入実績とネットによるごみ回収の方向性は。

答弁：令和7年度車両搬入実績は、大崎地区5132台、菱田地区2164台、野方地区が2374台で合計で9670台であった。

委託料　農地費「測量設計委託料」　1000万円

問：横瀬頭首工の改良工事に係るものであるが、概算工事費と地元負担の割合は。

答弁：工事費は、実施設計で確定することになるがおよそ7千万円から8千万円程度となるのでは。
大崎町と水利組合が負担する地元負担割合は、直接工事費の22・5％になる。

「地場産品創出等支援事業補助金」　1335万2千円

問：ふるさと納税の促進をはかることが目的であるが、採択された事業の内容と応募状況は。

答弁：事業内容は、うなぎを使用した新商品開発に必要な液体急速冷結機の導入と加工場の新設である3事業者から応募があり、審査会を経て、1事業者が採択された。



液体急速冷結機

問：ふるさと納税に関する産地偽装問題や地場産品の基準の厳格化を踏まえた本町の取り組みは。

答弁：本年度から事業所を訪問し、点検することにしている。

「スポーツ観光おおさき補助金」　450万円

問：スポーツ庁の補助金を活用するということだが、事業の目的は何か。

答弁：スポーツ観光おおさきが自走化を確立することを目的とし、事業内容としては、協賛企業やスポンサーの獲得を目的とした幅広い情報発信やＰＲを実施するマッチングイベントを開催することを計画している。

「大崎小学校校舎等大規模改修工事実施設計業務委託料」　1200万円

問：大崎小学校は建設後30年が経過し、改修工事も事業規模が大きくなることが想定されるということだが、改修後の耐用年数はどれくらいか。また、改修を繰り返すより、建て替えた方が安価で済むのではないか。

答弁：長寿命化計画の中では耐用年数は80年となっている。近年の物価高騰を背景に長寿命化を重ねていくより、建て替えた方が長期的に見れば経費が安くなる場合もあるので、今回の実施設計の結果を踏まえ、精査したい。

「大崎町中央運動公園トイレ新築工事設計業務委託料」　300万円

問：新設するトイレの概要と規模は。

答弁：現在のトイレの床面積は約30㎡であるが、今回計画しているトイレは、80㎡程度を考えている。トイレの概要は、男子用が小便器が4つ、大便器が4つ、女性用が大便器が6つ、これに加えて男女ともに多目的トイレを1つ、シャワー室を2つ、更衣室を1つずつ設置することを想定している。

問：現在のトイレは、男女とも1基ずつ和式の大便器があるということだが、洋式に統一する考えはないのか。

答弁：便座に触れることを苦手とする利用者もいると聞いているが、設計に当たって検討したい。

問：中央運動公園をはじめとする施設にネーミングライツを導入する考えはないか。

答弁：ネーミングライツを導入することで維持管理費の財源として確保できることから、現在、検討している段階である。

めに使われたか 町内事務調査

総務厚生常任委員会

7月1日(水)

防犯カメラ設置業務委託



2,271,195円（消防防災関係）

この委託事業は、交通事故の危険性が高い国道沿いの三文字地区および上町地区の交差点2ヶ所と大丸小学校付近に1ヶ所、合計3ヶ所に防犯カメラを設置したものです。防犯カメラは事件・事故の抑止力にもなるため、他の場所にも設置する計画はないのかとの問に対し、要望があれば交通安全対策関係の会議等で協議し、検討していきたいとのことでありました。

標高標識購入

この備品は平成24年から25年にかけて整備された標高標識が経年劣化により破損がみられたことから今回、町内99ヶ所に整備するものです。標高標識は英語表記もあるが、町内に外国人が居住しているため、多言語表記も検討するよう要望しました。



6,897,000円

交通安全施設工事



3,000,000円

この工事は、道路標識や道路区画線、ガードレール、ロードミラー等の交通安全施設を整備するもので、今回は、複数あった工事の中から、町道益丸中沖線の区画線工事を抽出し、調査を行いました。

中央分団消防詰所新築工事

この工事は令和６年８月に発生した日向灘沖地震により被災した中央分団消防詰所を移転新築するものです。消防設備などは充足しているかの問には、必要な消防設備については、消防分団の意見を聞き対応していく。とのことでありました。



177,788,000円

- **防犯カメラ設置業務委託（管財関係）** 2,534,508円
- **本庁舎防災倉庫設置工事** 4,183,000円
- **非常用発電機購入** 2,233,000円

予算は目的を達成するた

文教経済常任委員会

6月29日(月)



菱田小学校防犯カメラ設置業務委託事業

児童の安全を守るために、菱田小学校に防犯カメラ３台と、職員室にモニター１台が設置されました。委員会からカメラの映像を映し出すモニターが４台分映し出せることからカメラも４台設置して将来はデジタルカメラにすべきとの要望が出されました。

入札予定価格　1,205,000円
応札決定額　1,188,000円



改良工事に伴い設置された児童用シャワールーム

菱田小学校校舎の内装、外装、トイレ電気設備の改修、給排水の長寿命化工事が行われました。特に保健室に児童用シャワールームが設置されております。工事は令和7年５月２日から令和８年２月27日までの302日間でした。

この間、児童は仮設校舎での学習活動となりました。

当初予定価格　427,035,000円
工事決定額　466,400,000円



中央公民館会議室空調機器取替修繕

中央公民館の1階第３会議室、及び２階第１会議室のエアコンの取替工事が行われました。第１会議室は当初１台のエアコンでしたが、効率アップと部屋を均等な温度にするため２台の設置となりました。

なお、1階会議室の反響音対策、２階ホールなどの雨漏り対策の改修なども要望しました。

入札予定価格　5,452,760円
応札決定額　5,940,000円

- **他に南中組中村線道路改良工事　２件** 47,766,000円
- **大崎小、野方小学校遊具新設工事** 2,389,000円
- **野方小プールポンプ取替工事** 3,850,000円

９月定例会議案等に対する採決状況一覧

（○賛成　●反対　議長(吉原信雄)は採決に加わらない。）

議案等の番号	件名	賛否の意思表示											
		藤田香澄	岡元修一	富重幸博	児玉孝徳	稲留光晴	神﨑文男	宮本昭一	中倉広文	中山美幸	鷲東慎一	吉原信雄	議決結果
議案第31号	令和８年度大崎町一般会計補正予算（第４号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第32号	令和８年度大崎町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第33号	令和８年度大崎町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第34号	令和８年度オオサキポイント事業特別会計補正予算（第１号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第35号	令和８年度大崎町水道事業会計補正予算（第１号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第36号	令和８年度大崎町公共下水道事業会計補正予算（第２号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第37号	大崎町くにの松原ビーチスポーツ専用競技場シャワー棟の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第38号	損害賠償の額を定め和解することについて	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	可決
議案第39号	令和８年度大崎町一般会計補正予算(第３号)	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
議案第42号	損害賠償の額を定め和解することについて	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	可決
議案第43号	令和８年度大崎町一般会計補正予算（第５号）	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	原案可決
発議第３号	非核三原則の堅持を求める意見書(案)の提出について	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	可決
諮問第１号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	-	適任である
同意第14号	農業委員会委員の任命について	-	-	-	-	-	-	欠	-	-	-	-	同意

農業委員会委員を同意

本会議において無記名投票を行い、下記の１名を農業委員会委員として同意しました。

氏　名（敬称略）	住　所	年　齢
田　中　健　一	大崎町野方	62 歳

※年齢は令和８年 11 月１日現在

一般質問

5議員が登壇 町政を問う

鷲東慎一 議員
- 農業振興に向けた農業委員選考過程の適正化と持続可能な農地政策の実行
- 農業委員会における農地政策の進捗と持続可能な農業振興に向けた今後の方向性

P 8

児玉孝徳 議員
- 人口減少時代における持続可能なまちづくり
- 給水車を導入する考えはないか
- 電子投票を導入する考えはないか

P 9

稲留光晴 議員
- 第３次総合計画まちづくりの基本理念
- 小･中学校授業でのタブレット使用

P 10

中山美幸 議員
- 大規模小売店舗立地取り下げ
- 公共施設の改修

P 11

藤田香澄 議員
- 早期の難聴対策と補聴器の補助
- 会計年度任用職員の処遇
- 大規模災害における避難所運営

P 12

一般質問とは

町長などの執行機関に対し、業務の執行状況や将来の方針などについて議員個人として政策論争を行うものです。

二次元コードをスマホ等で読み込むと各議員の一般質問を視聴できます。

問い合せ先：大崎町議会事務局　TEL ０９９−４７６−１１１１（内線　３１０・３１１）

農業委員選考の不備と情報公開の徹底を

議会の判断は重く受け止める



鷲東（わしとう）　愼一（しんいち）　議員

問 複数の議員に、町民から公正な審議、候補者の適格性について確認を求める要請がありました。調査の結果、選考手順の不透明さや法令違反の疑いが浮き彫りになり、議会の同意権軽視にあたる。「不同意理由が示されていない」と弁明するのではなく、人事案件の適格性を客観的に証明・説明する立証責任は提案側の執行部にある。

同意案件は議会の判断

答 町長 選考委員会の答申を踏まえ適任と判断した。議会から不同意理由が示されず改善の推測は困難だが、議会の判断は重く受け止めている。

農業委員会会長 同意案件の在り方は、私自身も同意を受ける立場にあるためコメントする立場にないが、反対票が投じられたことは、大変遺憾に思う。

事務局の不透明な事務執行と情報公開の適正化を

問 法律で常時公表が義務付けられている議事録の閲覧拒否や、委員会での出席状況に関する虚偽の答弁があった。さらに、公金から支払われる手当実績の氏名黒塗りは、公金使途の監視を認めている。最高裁判例※の趣旨に反するのではないか。



農業委員会臨時総会

注意喚起を行う

答 町長 議会審議における答弁の正確性を徹底するよう、改めて注意喚起を行う。

事務局長 閲覧手順を改め、ホームページでの公表を開始した。誤った答弁は確認不足を陳謝し訂正する。氏名非開示は個人情報保護に基づく判断で、判例を精査し弁護士と相談の上検証する。

客観的な選考基準と議会チェック機能の認識は

問 議会の役割は公金が伴う特別職の適格性を厳しく審査することであり（権能）、個人攻撃ではない。再任審査で出欠や研修実績等のデータが除外されていた選考手順を改め、客観的な実働実績を選考要綱に明記すべきだ。

改善すべき点は見直しを検討

答 町長 現行の選考プロセスも適正と考えるが、近隣自治体の選考基準を研究し、改善すべき点があれば見直しを検討する。

農業委員会会長 事務局からは報告を受けて厳しく指導している。

農地集積率の低下と組織的な支援体制を

問 農地集積率が年々低下している。条件不利地における貸借のミスマッチを解消するため、農業委員個人の努力に頼るのではなく、ＪＡや町担当課を交えた組織的なマッチング協議会を設けるべきでは。

町全体で取り組む

答 町長 委員の負担を軽減するため、ＪＡや認定農業者等と情報共有・連携を図り、町全体で集積率向上に取り組む。

事務局長 集積率は令和7年度で41・7％と減少傾向で関係機関との連携を強化し、集積に努める。

＊最高裁判所判決　平成17年「公文書非開示処分取消事件」
公務員の職務に係る氏名は、行政の透明性を優先し「原則開示すべき」と判断された。

持続可能なまちづくりを望む

必要な機能をどう残すかが重要



児玉（こだま）　孝徳（たかのり）　議員

問 人口減少対策と同時に、人口減少しても行政サービスを維持できる仕組みづくりが必要ではないか。又、10年後、20年後の行政規模や地域構造をどう考えるのか。

集約化や複合化 用途変更などを検討する

答 **町長**　人口減少対策と、減少しても持続できる仕組みづくりを同時に進める必要がある。公共施設についても、すべてを現在の形で維持するのではなく、集約化や複合化、用途変更などを検討し、建物を残すのではなく、町民の暮らしに必要な機能をどう残すかという視点が重要と考える。

地域コミュニティを今後どう維持していくのか

問 自治公民館、地域活動、消防、防災、高齢者の見守りなど、これまで地域住民を支えてきた地域コミュニティを今後どのように維持していく考えなのか。



菱田コミュニティ協議会
設立準備委員会

新たな地域コミュニティを進めている

答 **町長**　人口減少による地域コミュニティの担い手不足について、菱田校区をモデル地区に新たな仕組みづくりを進める。

大崎町スマートシュリンク計画を策定すべきでは

問 将来人口、財政、公共施設、交通、地域コミュニティ、職員数など一体的に捉え、10年後、20年後、30年後の本町の姿を示す大崎町版※スマートシュリンク計画の策定を考えるべきではないか。

現時点では考えていない

答 **町長**　現時点でスマートシュリンク計画を策定する考えはない。既存の各種計画を人口減少という共通の視点でつなぎ、将来にわたり守るべきものは守り、変えるべきものは変えていく。

長期断水に備え給水車を導入する考えはないか

問 災害が多発する現在、長期断水に備え給水車を導入する考えはないか。お祭りやスポーツ大会などでも使えると思うがどうか。

必要性を認め検討する

答 **町長**　災害時の長期断水に備えた給水車については給水能力を高める必要性を認め、給水車を含め給水体制全体を検討する。



霧島市給水車（熊本地震支援活動）

電子投票の導入を

問 投票率向上や将来的な選挙事務の効率化につながる可能性がある電子投票について、導入に向けた町の考えはないか。

費用や効果など研究する

答 **町長**　電子投票については、メリットや課題を踏まえ、県内自治体の導入状況や費用、効果など調査・研究する。

※スマートシュリンクとは、行政サービス、公共施設、地域コミュニティなど将来の人口規模や財政状況に合わせ計画的に再設計する考え方。

持続可能なまちづくり
基本理念の具体化は
人と対話そして循環である



稲留（いなとめ）　光晴（みつはる）　議員

問 第三次総合計画基本理念の具体化で持続可能なまちづくりに何が必要か。

基本理念の循環コンセプトでの人との対話である

答 町長 世代を超えた循環、資源の循環、経済の循環という三つの循環コンセプトを理念にあげ、対話と循環が持続可能なまちづくりにつながる。

サーキュラーヴィレッジ大崎町の現状と進捗は

問 未来の大崎町ビジョンマップの中で、すべてのものはリユース・リサイクルされて循環するとあるが現状はどうか。

使用済紙おむつの資源化など資源循環に取り組む

答 町長 サーキュラーヴィレッジの構想は、事業展開して5年余りが経過した。企業版ふるさと納税も活用し、使用済紙おむつの資源化、生ごみ堆肥化工程のデジタル化など資源循環に関する新たな取り組みを進めている。

また、リサイクル、循環型地域づくりを体験してもらっている。



小・中学校におけるタブレット使用状況は

問 ＩＣＴ授業でのタブレット使用状況はどうなっているか。

新タブレットに更新しすべての教科で使用

答 教育長 タブレット使用状況は、小学校６年生の児童および中学校３年生の生徒が毎日使用している割合は県や全国より高い数値となっている。

ＩＣＴ機器を積極的に使用でき、すべての教科でタブレットを使用している。

ＡＩ活用は

問 活用状況は小学校、中学校どうなっているか。

小学校・中学校とも生成ＡＩを導入している

答 教育長 小学校では「ｔｏｍｏＬｉｎｋｓ」、中学校では「ｅライブラリ」を生成ＡＩとして導入しており、問題を解くと、すぐに正誤を判別し、結果が出るようになっている。児童生徒の解答状況をＡＩが分析し、その児童生徒の実態に応じた難易度の問題を出題することができる。

また、小学校５・６年生と中学校全生徒に生成ＡＩの「ワールドクラスルーム」という英語教材を導入し、英語の発音チェックやキャラクターと英会話をしたりするなど英語向上に努めている。

課題は何か

問 ＡＩ活用には課題もあると考えるがどうか。

モラル教育と研修の充実でリスクの軽減

答 教育長 個人情報の漏洩や著作権侵害のリスクがあることが挙げられる。

適切な情報モラル教育と研修の充実によってリスクを軽減しながら効果的な活用を進めていく。



タブレットを使用した授業風景

トライアル取り下げは杭が残ったためか

杭の先端35本が残ったため



中山（なかやま）　美幸（みゆき）　議員

問 菱田中学校跡地残置物撤去工事、見積額1億1986万円、工事代金1億1880万円が既に支払われている。

撤去することが条件であり、杭が撤去できていないことが県への取り下げ書提出の要因か。

181本のうち35本の先端部分95mが残った

答 **町長** 当初計画で残余杭は2割程度で実質35本残った。計画を再検討するとのことである。

杭の本数がたびたび変わるのはなぜか

問 令和7年の特別委員会の時、国・県の「空き家対策総合支援事業」申請2億3706万円に関する平成30年PFI事業で旧校舎、武道館撤去、消防詰所建築、143本の杭ヌキ工事が含まれている。その後181本に増加、杭ヌキしなかったその要因は何か。

利用計画が具体化した時に撤去する

答 **町長** 国県への申請時、体育館部分を除く杭ヌキを計画、残りの杭は宿泊施設などの新築建設の杭として活用を考えていた。PFI事業による合宿施設建設整備が見送られ、新たな土地利用計画が具体化し、不要であれば杭ヌキすることとした。

新たな住民負担をお願いするのか

問 町民の間では、賛否両論様々な問題が提起されており、町長は5月7日残余杭35本長さにして95mあることをトライアルと折衝されている。

残余杭全て抜く追加工事1億2千万円、すでに支払い済み工事代金1億1800万円、誘致に関する助成金など合計5～6億円が予想される。これを住民に負担させるのか。

負担を抑え出店を目指す

答 **町長** 問題解決に向けて一定の費用は要する。出店は買い物環境の充実・雇用の創出、将来への効果など、費用だけでなく総合的に判断し、出店実現に向け解決策を見い出していく。

トライアルからは、町に買い戻してもらい賃貸ではどうかとの提案も示されている。町負担の無いよう努力する。



先端部分が折れた基礎杭

中央公民館の雨漏り防止対策の考えはないか

問 田中グラウンドのトイレ改修は予算計上されたので、今回は中央公民館の大ホール・西側通路など、ひどい雨漏りが見られる。特に大ホール舞台側は照明器具の周りまで雨漏りが進んでおり漏電や天板・照明器具などと共に崩落や火災が心配される。利用者は不安や危険を感じる。又、会議室の音声反響もあり利便性に欠ける。早急な対策が必要ではないか。

早急に判断する

答 **町長** 指摘されたような事故が起きると正に人災である。利便性と安全確保、どのように見るか考え、安全に利用していただくことが絶対条件なので、早急に判断する。

補聴器購入に公的支援を

具体的に検討していきたい



藤田（ふじた）　香澄（かすみ）議員

問 身体障害者手帳の交付対象とならない18歳以上の軽度・中等度難聴者に対し、補聴器購入費の助成制度を創設する考えはないか。

制度創設も選択肢として具体的に検討したい

答 町長 県内自治体の実施状況や対象年齢、助成額、所得要件、財政負担などを調査し、本町における制度創設についても選択肢の一つとして具体的に検討していきたい。



様々な形状をした補聴器

介護予防・認知症予防に難聴対応も位置付けを

問 難聴の早期発見や適切な補聴器の利用促進を、介護予防・認知症予防施策に位置づける考えはないか。

介護保険事業計画等の策定の中で検討したい

答 町長 本年度策定する介護保険事業計画及び認知症基本計画の中で、高齢者の介護予防や社会参加を支える視点から、どのような取組ができるか検討したい。

任用職員の職務に応じた給与体系の見直しを

問 学校支援員等の業務内容が複雑化・高度化する中で、職務内容や専門性を適切に評価し、会計年度任用職員全般の給与体系や処遇を見直す考えはないか。

必要に応じて給与体系の見直しを検討したい

答 町長 職種や人材確保の面から見直しが必要と判断した場合には、財政への影響等を整理し、適切な時期に必要な対応を進めていきたい。会計年度任用職員が安心して職務に従事できる環境を整えることは、行政サービスの安定にもつながるため、給与水準を含む適切な処遇の確保に努めたい。

大規模災害に備えた備蓄の充実を

問 南海トラフ巨大地震等による最大避難者数と、現在の備蓄状況は。

不足物資の確保と計画的な整備を進める

答 町長 最大避難者数は１０８０人を想定している。食料３３８４食、飲料水２２８０本、簡易トイレ93台等を備蓄しているが、十分とは言えない状況であり、不足物資の早急な確保に努めたい。

避難所での宿泊体験会の実施はどうか

問 災害時の避難所生活を実際に体験し、課題を把握するため、住民が避難所で一晩過ごす宿泊型の避難訓練を実施する考えはないか。

モデル的な実施も含めて検討したい

答 町長 避難所宿泊体験会については、実際の避難所運営における課題を把握する上で非常に有効な取組の一つであると考えている。実際に一晩過ごすことで、平常時の訓練では気づきにくい課題が明らかになることもある。モデル的な実施も含めて検討したい。



芦屋市の取り組み

議員研修（議会活動の活性化と住民福祉の向上）

肝属・曽於郡町村議会議長会所管事務調査を中心とした委員会活動について

7月15日

講師：前鹿児島県町村議会議長会
事務局局長　中村逸郎氏

地方自治法に基づく委員会制度は、常任委員会・特別委員会がそれぞれの所管分野において行政の施策や事務の状況を調査し、議会の政策形成力を高める役割を担います。

委員会運営では、委員間の協議と透明性ある議事進行が求められ、所管事務調査は現場確認や担当課への聴取、資料要求などを通じて課題を把握し、改善提言につなげる重要な活動です。継続事務調査申出書により、年度をまたぐ調査の継続も可能となります。

委員長は公平性、議事整理、合意形成を重視し、委員の意見を尊重しながら委員会を運営することが求められます。



知事との語る会「農林水産業の稼ぐ力の向上」について

8月21日

講師：鹿児島県知事　塩田康一氏

鹿児島県では、塩田知事が掲げる「農林水産業の稼ぐ力の向上」に取り組んでおり、県産品の付加価値を高めるとともに新たな販路を開拓することで、農林水産業を「量で稼ぐ産業」から「価値で稼ぐ産業」へと発展させることを目指しています。



また、大隅地域では、ＰＰＩＨ（ドン・キホーテグループ）との連携による青果物やさつまいもの輸出拡大をはじめ、志布志港の物流基盤強化や都城志布志道路の整備による輸送時間の短縮を進めるとともに、国際クルーズ船への県産品供給など新たな販路開拓にも取り組んでいます。

さらに、曽於地区では、ＳＫＬＶ（南九州畜産獣医学拠点）を活用した獣医師育成や大隅産茶のブランド発信など、人材育成と地域資源の価値向上を推進しており、こうした取り組みを通じて、生産者の所得向上と地域経済の活性化を図りながら、持続可能な農林水産業の実現を目指しています。

長島町議会来訪「議員定数と議員報酬の見直しについて」

10月13日

長島町議会議員の皆様が来訪された際、本町議会改革等調査特別委員会の取り組みについて説明いたしました。住民代表との意見交換や熟議を重ねながら議員定数・報酬のあり方を検討した経緯、また「議員活動の見える化」を改革の原点として位置付け、議会モニター制度の導入や議会報告の充実など議会改革を進める考え方について説明しました。あわせて、住民の声を議会運営へ反映させる仕組みづくりや、議会の信頼向上に向けた取り組みについて意見交換を行い、双方にとって大変有意義な機会となりました。



議員の「定数」と「報酬」はどう決まったか？

大崎町議会改革等調査特別委員会（以降：委員会）では、各公民分館から推薦された住民代表6名、鹿児島大学の片野坂准教授、町議会議員6名の計13名による対話を重ねてまいりました。町民の皆様の関心が高い「議員定数」と「議員報酬」の決定事項、ならびに議会改革の取り組みについてご報告します。

1　議員定数について（次期改選より「10名」へ）

決定までのプロセス

自らの身分に関わる問題だからこそ、公開の場で客観的なプロセスを経て決定いたしました。

・住民代表の意思確認

（3分の2が削減を支持）

「10名に削減」3名、「8名に削減」1名、「12名維持」2名

・議会全員協議会

（過半数が削減を支持）

出席議員9名中、「10名に削減」5名、「12名維持」4名

・決定事項

双方の過半数が削減を支持した結果を受け、次期改選より定数を「10名」とすることを委員会の最終意見として決定しました。

住民からの不安に対する議会の姿勢

Q1.集落や校区の声が届きにくくならないか？

Q2.委員会の人数が不足し審議が薄くならないか？

Q3.責任を放棄し、住民意見に流されただけではないか？

※議会としては、これらの懸念に対して後述の「6つのルール改革」により、質・量ともに補完・強化を図ってまいります。

2　議員報酬について

基本方針

・議会自らが報酬を引き上げる提案は厳に慎み、まずは「定数削減」と「身内のルール・規律改革」を先行・断行します。

・報酬額の改定については、町長の諮問機関である「特別職報酬等審議会」などの客観的な判断に委ねることで合意しました。

◇住民代表から出された引き上げと現状維持、双方の意見

協議の中では、生活実感に基づく二つのご意見が出されました。議会はどちらか一方のみを採用するのではなく、双方の声を公式記録として残しました。

・引き上げを求める声（若い担い手確保・生活給の視点）

20年以上報酬が据え置かれており物価高に対応できていない。削減分を充て月額25万～29万円程度に引き上げなければ、若い世代の立候補は困難。

・現状維持を求める声（年金生活者目線・副業前提の視点）

農業等の副業と組み合わせる地域の実情や感覚から現状維持が妥当。改革実績がない段階での引き上げは慎重であるべき。

3　改革の原点

「議員の活動が見えない」という指摘

・本委員会で議員が同席しない「住民



大崎町議会の未来をつくる改革報告

代表と大学准教授だけの意見交換会」を実施した際、皆様から「議員が普段どんな活動をしているのか全く見えない」という厳しい指摘を受けました。これを受け、定数や報酬の議論の大前提として「議会自らが身内のルールを正し、活動の見える化を図ること」を最優先課題として共有しました。

4　今任期中にすぐ実行する「6つのルール・規律改革」

議会の透明性を高め、町政への提案力を強めるため、速やかに以下の制度化を行います。

①議会モニター制度の導入（活動の見える化）

・アンケートや「住民と議会と語る会」を活用し、町民目線のチェック機能を早期にお試し導入します。

【メリット】町民の日常的な不満や意見が直接議会運営に届きます。

②委員会での「自由討議」の明文化（熟議の公式化）

・質疑と討論の間に、自由に双方向に論点整理を行う時間を制度化します。

【メリット】馴れ合いを防ぎ、政策に関する話し合いを格段に深めます。

③委員会代表質問の導入（政策監視・立案機能の強化）

・委員会で練り上げた専門的な政策提言を、代表議員が本会議で町長へ直接問いかけます。

【メリット】委員会全体の合意に基づいた力強い政策実現につながります。

④議会運営委員会の「常任委員会化」（改革の恒常化）

・継続して議会改革の推進や業務平準化を担う常設機関へ格上げします。

【メリット】一時的なパフォーマンスで終わらせず、継続的に議会を改善します。

⑤傍聴ルールの改善と厳格な秩序維持

・乳幼児・児童の同伴を原則許可とする一方、審議妨害やＳＮＳ無断配信等を厳禁化します。

【メリット】子育て世代が傍聴しやすくなる一方、厳正な審議環境を保持します。

⑥デジタル端末利用基準の策定（規律是正）

・タブレット等の公務利用を推進する一方、会議中の私的通信やＳＮＳ利用を禁止します。

【メリット】情報漏洩を防ぎ、審議に集中する高い倫理観を確立します。



5　次期改選後への引き継ぎ事項と結び

次期改選後への申し送り事項（継続調査）「通年議会（一年間いつでも開会できる制度）」及び「政務活動費（領収書全面公開による調査費）」の導入につきましては、役場・議会事務局の負担増、法的整理、使途チェック体制などの課題があるため、今期の導入は見送り次期議会へ継続調査事項として引き継ぎます。

住民代表の皆様が勇気を持って厳しい本音を語ってくださったからこそ、今回の改革は前進いたしました。大崎町議会は、皆様からいただいた宿題を確実に実行に移してまいります。

子育ての困りごとお聞きしました

開催日　令和８年 10 月 26 日
場　所　持留地区農業構造改善センター

「チーム WB（ウェルビーイング）おおさき未来の輪」の皆さまが、日常抱えている子育てや療育支援についての課題・要望等をお聞きしました。

参加議員：鷲東、中山、中倉、神﨑、岡元、藤田

【保育園・学校現場の支援体制】
・児童生徒の特性に合わせたきめ細かい対応が困難となっている。療育施設の専門スタッフが保育園や学校を訪問し、助言・指導する体制はとれないか。

【相談支援体制の改善要望】
・新たに５歳児検診の実施と相談窓口のワンストップ化、また、支援体制フローチャートを明示し、支援システム等についての可視化や案内の充実も望む。

【子どもの遊び場・地域子育て支援施設の不足】
・子どもの遊び場を併設した子育て支援拠点の設置により、子育て支援情報の掲示や保護者同士の自然な会話、居場所の確保が可能となるのではないか。

【中高生の発達障がい児支援と進路相談】
・発達障がい児については、小幼児対象の支援が多く、中高生に対応した相談体制や支援は不足している。また、進学・就職・キャリア教育に関わる情報や相談体制が乏しいため、親子の不安が大きい。心の相談や定期的な支援者の常駐を望む。


住民と議員と語る会

【保育園・学校の教職員研修の必要性】
・発達障がい児対応に対しての柔軟な指導方法について、体感的に学べる研修など教育現場のスキルアップも必要である。

【行政手続きの課題】
・行政手続きは複雑で提出書類も多い。簡素化・効率化を検討すべきである。

※頂きました課題や要望を十分調査し対応してまいります。
　貴重なご意見を頂きありがとうございました。

インタビュー

Pick Up おおさき

気になるあの人に聞いてみました！

熊本県八代市への災害派遣の鮫島さんに経験談を聞きました



広報広聴常任委員会委員
インタビュアー　中山（なかやま）　美幸（みゆき）　議員

熊本地震 被災地支援
鮫島（さめしま）　新也（しんや）さん

中山議員　**今回、災害派遣に応募した動機を教えてください。**

鮫島さん　被災して困っている自治体を、同じ公務員として少しでも助けたいという思いがありました。また、大崎町もいつか災害に見舞われるかもしれません。現地で実際の被害や行政の対応を学び、今後の町の防災対策に生かしたいと考え、応募しました。

中山議員　**被災された住民の方々と接して、何を感じましたか。**

鮫島さん　最も印象に残ったのは、被災された方々の不安です。「この家に住み続けて大丈夫なのか」「また地震が来たら倒壊しないか」といった心配に加え、罹災証明書の発行を待たなければ保険の手続きや住宅の再建に進めない場合もありました。生活費や今後の住まいなど、将来への不安も大きく、災害は建物だけでなく、人々の暮らしそのものに深刻な影響を及ぼすことを痛感しました。

中山議員　**災害対応で、行政の職員体制について感じたことはありますか。**

鮫島さん　大規模な災害が起きた場合、被災した自治体の職員だけで膨大な業務をこなすことは困難です。被災者の支援を進めるには、多くの人員が必要です。本町でも、職員自身が被災する可能性を考え、県や他自治体などに迅速に応援を要請できる体制を整えておくことが重要だと感じました。

中山議員　**行政の災害対応について、どのような課題があると感じましたか。**

鮫島さん　まず、地震や津波などによって町内でどの程度の被害が発生するのか、具体的に想定することが必要です。そのうえで、災害発生直後、職員の参集、避難所の開設、被災状況の把握、住民への対応など初動の行動を事前にシミュレーションしておくことが大切です。

中山議員　**住民の皆さんに伝えたいこと、今後に生かしたいことはありますか。**

鮫島さん　何よりも大切なのは命を守ることです。住宅の耐震化も重要ですが、日頃から避難場所や避難経路を確認し、避難訓練を通じて防災意識を高めていくことが必要です。今回の派遣で学んだことを、今後の大崎町の防災対策や行政の災害対応に生かしていきたいと思います。

◆鮫島さん、貴重なお話しありがとうございました。

何より命を守ることが第一です


災害対策・支援拠点

町民の広場

私の想い

「地元の歴史を覗いてみませんか」



歴史探学会おおさき
会長
清山（きよやま）　重則（しげのり）

大崎町野方の屋野さんの馬が、島津の殿様を乗せ参勤交代で、江戸まで行ったんだって、ホントニ？西南戦争で大崎上町に陣を張って激しい銃撃戦が行われたんだよ。野方の元大崎第一中学校の周辺での、激しい銃撃戦は双方から撃った鉄砲の弾同士が空中でぶつかり弾同士が引っ付いて地上に沢山落ちていたんだって。ホントカイナ？じゃその時、西郷さんはどこに居たの？知りたいよね？

現在はＡＩ時代で未来を予想したりしますが、歴史は人類の日記帳かな？このような事を想いながら「歴史探学会おおさき」の13名の会員は、現存する資料や史跡・石碑などを楽しんで調査いたします。現在は毎月第２木曜日13時から中央公民館で勉強会を実施しています。興味のある方は、ぜひ遊びに来てみてください。

２０１２年と２０２２年に「おおさきの歴史を旅してみませんか」史跡ガイドブックを大崎町教育委員会と協同して発行しました。

持留神社も11月は５００年祭を計画されています。来年は『大崎町史町制90年』も完成し、販売されることに決まりました。地域の歴史は私たちの身近にあります。

今後も大崎町の歴史を中心に、まち歩きしながら仲間と楽しんでいきたいと思います。余力があれば、大隅半島の歴史についても、想いを馳せていきたいと思います。皆さまの中からたくさんのお友達が、お仲間になっていただけるよう、心からお待ち申し上げております。



野方仮屋ケ谷小学校跡の標柱立て

編集後記

朝夕が涼しくなり秋を感じる季節となりました。

13年ぶりに発生した台風30号も地球温暖化の影響なのだろうか、10月になっても真夏日があったり急な冷え込みになったりと寒暖差に体調管理も難しくなってきました。運動、睡眠、食事のバランスを取りながら日常生活を元気に過ごしましょう。

議会だよりも皆さんに、分かりやすく読みやすい紙面作りを目指しております。また皆さんの声を聞きながら住み良い大崎町となるよう努力してまいります。（神﨑文男）

議会広報広聴常任委員会
委員長　岡元　修一
副委員長　中倉　広文
委員　中山　美幸
委員　宮本　昭一
委員　神﨑　文男
委員　稲留　光晴

発行責任者
大崎町議会議長　吉原　信雄